令和４年度 スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業

成果報告書

令和５年３月

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（Ｂ＆Ｇ財団）

目　次

１．事業実施に至る背景および事業趣旨　3

２．事業概要　4

３．事業推進体制　4
（１）連携体制　4
（２）組織体制　5

４．実行委員会　5
（１）委員名簿　5
（２）開催実績　6

５．各事業内容について　6
（１）「Ｂ＆Ｇスポ・レク倶楽部」の立上げと実施
①まとめ　6
②各実行団体における活動内容
・岩手県奥州市　7
・静岡県御前崎市　8
・熊本県宇城市　11

（２）「地域運営委員会」の開催
①まとめ　13
②各実行団体における活動内容
・岩手県奥州市　14
・静岡県御前崎市　15
・熊本県宇城市　15

（３）指導者研修会とボランティアの育成
①まとめ　16
②各実行団体における活動内容
・岩手県奥州市　16
・静岡県御前崎市　17
・熊本県宇城市　18

（４）「インクルーシブフェス」の開催
①まとめ 19
②各実行団体における活動内容
・岩手県奥州市 19
・静岡県御前崎市 21
・熊本県宇城市 22

（５）スポ・レク倶楽部「施設対抗オンライン運動会」の開催 24

６．事業成果について 25
（１）各実行団体における成果と課題
①岩手県奥州市 25
②静岡県御前崎市 26
③熊本県宇城市

（２）事業全体を通しての成果と課題 27

７．今後の展開等について 29

８．参加者アンケートによる考察 29

１．事業実施に至る背景および事業趣旨

Ｂ＆Ｇ財団は、全国に艇庫、プール、体育館からなる「Ｂ＆Ｇ海洋センター」を地元自治体の要望に基づき建設し、無償譲渡してきた。現在は 465 ヵ所の自治体の社会体育施設として運営されており、子供たちを主とした地域住民に、スポーツや自然体験活動の機会提供のほか、地域コミュニティを活性化するための各種事業を各地方自治体（主に教育委員会管轄）と協働して展開している。

障害者差別解消法の施行など、障がい者の社会参画に注目が集まる中、当財団では 2015 年度から、身体的、経済的、家庭的な理由により困難な状況にある子供たちの状況を「体験格差」と捉え、その支援に着手。障がい児や児童養護施設に暮らす子供たちなどに「水辺の自然体験活動」などを提供している。

そのような中、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催。パラリンピックを機に障がい者スポーツ（パラスポーツ）への関心が高まったが、一般の障がい者にとっては、健常者と比べスポーツ実施率が低いなど、気軽にスポーツを親しむ機会が十分であるとはいえない。加えて、Ｂ＆Ｇ海洋センターは、「地域のスポーツとコミュニティの拠点施設」として住民に親しまれており、地域の子供たちや住民等を対象としたスポーツ教室や各種事業は行われているものの、Ｂ＆Ｇ海洋センター所在地は小規模財政の自治体が多く、障がい者を対象としたスポーツ事業への取り組みは十分であるとは言えないのが現状である。

そこで、東京パラリンピックの機運を「レガシー」とするために、地域の公共スポーツ施設である「Ｂ＆Ｇ海洋センター」に、地元の障がい者が多様なスポーツやレクリエーション活動を継続的に楽しめる環境を整え、その機会を提供することで、障がい者のスポーツ実施率向上とスポーツライフを豊かにし、地域での共生社会実現への一助とすることを目的に、2022 年度より本プロジェクトに着手することとした。

実地地については、全国のＢ＆Ｇ海洋センターから、初年度モデルとして、異なる地域・周辺環境・対象の観点から、以下の 3 自治体を実行団体として、自治体と協働でプロジェクトを開始した。

【実行団体】

①東北地方　岩手県奥州市　　奥州市前沢Ｂ＆Ｇ海洋センター
②中部地方　静岡県御前崎市　　御前崎市Ｂ＆Ｇ海洋センター
③九州地方　熊本県宇城市　　宇城市三角Ｂ＆Ｇ海洋センター

２．事業概要

事業実施にあたっては、以下の４本柱を主軸に事業を展開した。

（１）「Ｂ＆Ｇ障がい者スポ・レク倶楽部」の立上げおよび実施

【内　容】地域の福祉施設等の障がい者を対象とした年間を通じたスポーツ・レクリエーション教室「Ｂ＆Ｇスポ・レク倶楽部」を立上げ、パラスポーツやレクリエーション等の教室を開催

【ねらい】地元の障がい者団体等と連携し、障がい者が身近な場所で、気軽にスポーツやレクリエーションを実施できる環境を整える

（２）指導者研修会とボランティアの育成

【内　容】 障がい者スポーツ等についての知識と指導技術を学ぶ指導者・ボランティアの研修会

【ねらい】「スポ・レク倶楽部」の運営協力者として、指導者やボランティア等を育成する

（３）「地域運営委員会」の開催

【内　容】 障がい者支援団体など、本プロジェクトに関わる各地域のステークホルダーとの状況共有や意見交換など

【ねらい】障がい者支援組織や団体など、地域の障がい者に関わるステークホルダーと協働できるよう組織化することで、今後の自走化を目指す

（４）「インクルーシブフェス」の開催

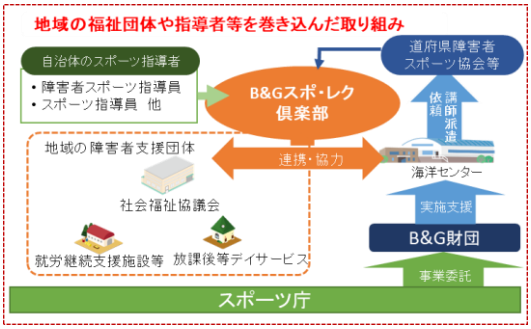
【内　容】 障がい者を含む地域住民を対象としたパラスポーツなどの一日体験会

【ねらい】健常者と障がい者が一緒にスポーツ活動を行うことで交流を図るとともに、障がいについて考え理解を深める機会とする

３．事業推進体制について

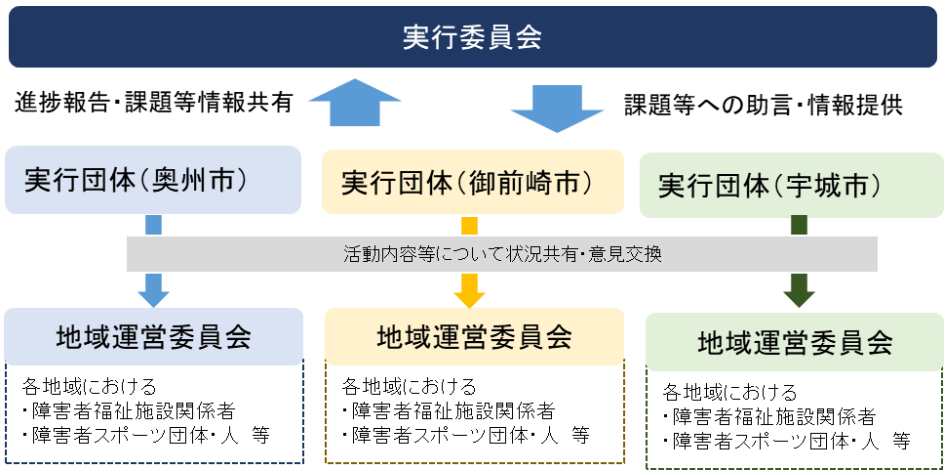
（１）連携体制

本事業は、地域を巻き込んだ取り組みとして、障がい者支援業務に関わる地域のステークホルダーから協力を得て実施した。



（２）組織体制

事業を推進するにあたり、有識者による「実行委員会」を設置するとともに、各実行団体においても「地域運営委員会」を実施し、情報共有や意見交換等を行える体制を整えた。



４．実行委員会の開催

事業を円滑に推進することを目的に「実行委員会」を設置。有識者による専門的な知見を伺うとともに、各実行団体の事業責任者もメンバーに加え、事業の進捗状況や活動事例、各地域における課題や課題に対する助言などを情報共有するとともに、事業成果や今後の展開方法等についても意見交換を行った。

（１）委員名簿

	氏名	所属
委員長	藤田　紀昭	日本福祉大学　スポーツ科学部部長
委員	田口　亜希	日本パラリンピアンズ協会　副会長
委員	金子　知史	(公財)日本財団 子どもサポートチーム　チームリーダー （元日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部ディレクター）
委員	及川　浩行	岩手県 奥州市前沢Ｂ＆Ｇ海洋センター （前沢いきいきスポーツランド）
委員	土屋　あづさ	静岡県 御前崎市Ｂ＆Ｇ海洋センター （公財）御前崎市振興公社）
委員	松下　和史	熊本県 宇城市三角Ｂ＆Ｇ海洋センター （宇城市教育委員会）
委員	東條　剛之	(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 事業部　部長

（２）開催実績

	日程	場所	主な内容
第１回	5 月 27 日	Ｂ＆Ｇ財団 事務所	【キックオフ】 ・本事業の趣旨および事業説明 ・各実行団体の活動計画と意見交換
第２回	11 月 18 日	オンライン開催	【中間報告】 ・各実行団体の事業進捗状況、課題等に対する意見交換
第３回	2 月 24 日	Ｂ＆Ｇ財団 事務所	【まとめ】 ・Ｂ＆Ｇ財団活動報告 ・各実行団体の年間活動報告と成果、今後の方向性等 ・本事業の成果と今後について ・総括

第２回実行委員会の様子（オンライン開催）

第３回実行委員会の様子

５．各事業内容について

（1）「Ｂ＆Ｇスポ・レク倶楽部」の立上げと実施

【まとめ】

各実行団体において、地域の障がい者福祉団体や放課後等デイサービス、特別支援学校などと連携し、障がい者が年間を通じてスポーツやレクリエーションを楽しむ教室「Ｂ＆Ｇスポ・レク倶楽部」を立上げて活動を開始。地域の障がい者が身近にある公共施設（海洋センター）でスポーツを行う機会を創出したことにより、今までは、単にスポーツ施設の近隣にある障がい者福祉団体との位置づけだったものが、関係性を確立することでき、障がい者が気軽にスポーツを行える環境が整った。

【活動実績】

社会福祉団体職員等の介助者や支援者も含め「Ｂ＆Ｇスポ・レク倶楽部」の活動に年間 1,358 名（うち、障がい者 709 名）が参加した。

① 各実行団体における活動内容

【岩手県奥州市】

ア. 地域における課題や実施に至る背景など

奥州市Ｂ＆Ｇ海洋センターでは、地域の障がい者スポーツ推進に向け、数年前から障がい者福祉団体等と連携を図りつつあったものの、十分には進んでいない現状もあった。そのため本プロジェクトを機に、加速度的に障がい者スポーツの推進に取り組むこととした。

イ. 活動の特徴

地域にある障がい者福祉施設等を対象に教室等を実施。奥州市で盛んなボッチャをはじめ、様々な軽スポーツやパラスポーツなどに挑戦した。

ウ. 活動実績

全 6 回実施。219 名が参加。（障がい者：159 名　福祉施設職員等：60 名）

※上記とは別に、スペシャルオリンピックス岩手・県南ブランチに所属する選手を対象に、全 10 回のボッチャ教室を予定していたがコロナにより中止となった。

エ. 主な対象

・知的障がい者通所授産施設（ひまわり園）

・就労継続支援Ｂ型事業所（白梅の園）

・生活介護施設（スマイリー）　ほか

オ. 主な活動内容

ボッチャ・モルック・スマイルボウリング・卓球バレー・ラダーゲッター等、パラスポーツや軽スポーツ

カ. 年間活動実績

	日程	対象団体	主な内容	参加者（名）	
				障がい者	施設職等
1	6 月 28 日	知的障がい者通所授産施設「ひまわり園」	ボッチャ、スマイルボウリング、ラダーゲッター	49	25
2	11 月 15 日	生活介護施設「すまいりー」	ボッチャ	17	8
3	11 月 22 日	生活介護施設「すまいりー」	モルック	17	8
4	1 月 30 日	就労継続支援Ｂ型事業所「白梅の園」	オンライン運動会	36	11
5	2 月 16 日	放課後等デイサービス「ひだまり江刺岩谷堂」	モルック体験	11	3
6	2 月 23 日	障がい者支援施設「興郷塾」	ボッチャ、スマイルボウリング、ラダーゲッター	29	5

―	7 月～10 月	中止：スペシャルオリンピックス岩手・県南ブランチ	予定：ボッチャ体験 →コロナにより全 10 回中止		
			合　　計	159	60

キ．成果等

・スポーツ機会が乏しかった地域の障がい者にスポーツやレクリエーションを楽しむ機会を提供できたともに、「スポ・レク倶楽部」の活動開始を機に、新たな福祉関係者等とのネットワークの構築にもつながるなど、Ｂ＆Ｇ海洋センターでスポーツを楽しむための土台が整った。

・地域での障がい者スポーツ理解と普及・促進に貢献することができた。

放課後等デイサービスの子供にも実施

【静岡県御前崎市】

ア．地域における課題や実施に至る背景など

障がい児へのスポーツ機会提供として、水泳教室は健常児クラスのなかで、体験会的に実施していたものの、実施回数などは限られていた。保護者からの要望等もあり、プロジェクトをきっかけとして、本格的に障がい児の継続的なスポーツ機会を提供できるよう本事業に着手することとした。

イ．活動の特徴

子供を主な対象とし、放課後等デイサービスに通う障がい児や個人の障がい児等に、年間を通じたプール教室や体育館でのレクリエーション活動などを行った。

ウ．活動実績

全 70 回実施。971 名が参加。（障がい児・障がい者 490 名、付添等：481 名）

エ．主な対象

放課後等デイサービス（リカバリー池新田・リカバリー佐倉・リカバリー牧之原・リカバリー菊川加茂・ひまわり池新田）に通う障がい児、個人の障がい児・障がい者

オ．主な活動内容

体育館でのレクリエーション活動、室内プールでの水遊び、水慣れ～泳法習得、水中運動　等

カ．年間活動実績

	日程	対象者	主な内容	参加者（名）	
				障がい児	見守り・付添等
1	6 月 5, 12, 26 日 7 月 3, 24, 31 日 8 月 21, 28 日 9 月 11, 23, 25 日 10 月 2, 23, 30 日 11 月 3, 13, 27 日 12 月 4, 11 日 1 月 8, 22 日 2 月 5, 26 日 3 月 5, 12 日（全 25 回）	障がい者 （中学生以上）	プールでの水中運動教室	90	90
2	6 月 4, 11, 18 日 7 月 9, 16, 23, 30 日 8 月 6, 20, 27 日 9 月 3, 10, 17 日 10 月 8, 15, 22, 29 日 11 月 5, 12, 19, 26 日 12 月 3, 10 日 1 月 14, 21 日 2 月 4, 11, 18, 25 日 3 月 4, 11, 18, 25 日 （全 33 回）	障がい児 （小学生以下）	水泳・水遊び	291	305

3	8 月 1 日・8 日・11 日（全 3 回） ※スタッフ研修 7 月 17 日	団体･個人の障がい児（家族）	屋外プールレクリエーション	19	18
4	6 月 12 日 7 月 9 日 8 月 6 日 9 月 10 日 10 月 8 日 11 月 12 日 12 月 10 日 1 月 14 日（全 8 回）	放課後等デイサービス・個人の障がい者	体育館レクリエーション（各種球技･スカットボールなど）	69	55
5	12 月 26 日	放課後等デイサービス・個人の障がい者	文化プログラム（正月飾り作り）	21	13
			合　　計（全 70 回）	490	481

※3 月末まで事業継続中のため、障がい児（小学生以下）「水泳・水遊び」教室参加者人数は、2 月 18 日までの実績

キ．成果等

保護者からは以下の感想が寄せられており、本教室へのニーズが高いことが伺える。

・「健常児は、スポーツ少年団など日常生活の中でスポーツを行える環境が整っているが、障がい児はそのような環境が乏しく、特に高学年など身体の成長過程において体力をつけねばならない年齢であっても、出来ることが限られてしまい、健常児との差が広がってしまう。そのため、定期的な運動の機会はありがたい」

・「障がい児は休日も出かけられる場所が少なく、家にいることも多い。インクルーシブフェスも含め、外出機会を作ってもらえるのはありがたい」

屋内プールでの活動の様子。営業時間外に実施することで、保護者にもプールサイドで見守り支援などの協力を依頼している。

体育館レクリエーション

文化プログラムも実施した
（多肉植物による正月飾り作り）

屋外プールでカヌーや遊具を使ったレクリエーションも実施。参加者にも好評であった

【熊本県宇城市】

ア．地域における課題や実施に至る背景など

地域にある障がい者福祉団体は、海洋センターを利用したことはあるが、施設利用にとどまっていた。そのため、本プロジェクトを機に有機的な関係性を構築することにより、地域の障がい者スポーツの普及・促進に着手することとした。

イ．活動の特徴

教育委員会の強みを活かし、障がい者福祉団体のみならず、市内公立小学校や支援学校にも出前教室を行うなど、健常児に対してのインクルーシブ教育も併せて実施した。

ウ．活動実績

全８回実施。168 名が参加（障がい者：60 名、施設職員等：108 名）

※その他、コロナにより夏の活動が２回中止

エ．主な対象

就労継続支援Ｂ型事業所「あいランド」、熊本県立松橋東支援学校、障がい者ワークセンターみすみ　など

※スペシャルオリンピックス宇城も予定していたがコロナにより中止

オ．主な活動内容

モルックやボッチャなどのパラスポーツ、軽スポーツなど

カ．年間活動実績

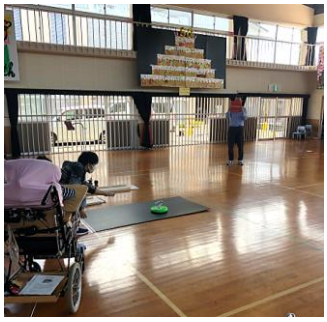
	日程	対象団体	主な内容	参加者（名）	
				障がい者	施設職員等
1	7 月 16 日	就労継続支援Ｂ型事業所「あいランド」	軽スポーツ（縄跳び、フラフープ、ミニバレー、ヘルスバレー、室内グラウンドゴルフ）等	12	5
―	8 月 20 日	スペシャルオリンピックス宇城	予定：プールカヌー体験 →コロナにより中止	中止	
―	8 月 27 日	障がい者就労支援施設ワークセンターみすみ	予定：軽スポーツ体験 →コロナにより中止	中止	
2	10 月 24 日	熊本県立松橋東支援学校	出前パラスポーツ教室① カローリング体験	2	4
3	11 月 13 日	宇城市立三角小学校	出前教室　ガイドランナー・モルック体験　※指導者研修会・児童体験会も兼ねる（児童 30 人、保護者 25 人）	1	55
4	11 月 19 日	宇城市立不知火小学校	出前教室　モルック・アジャタ体験　※児童体験会も兼ねる	2	30
5	12 月 19 日	熊本県立松橋東支援学校	出前パラスポーツ教室② カローリング体験	2	2
6	1 月 30 日	就労継続支援Ｂ型事業所「あいランド」	オンライン運動会	22	4
7	3 月 1 日	グループホーム ㈱パレット	モルック体験	7	3
8	3 月 4 日	就労継続支援Ｂ型事業所「あいランド」	ニュースポーツ体験	12	5
			合　　計	60	108

キ．成果等

・地域の障がい者福祉団体との新たなネットワークが構築でき、スポーツ機会が少なかった地域の障がい者がスポーツを楽しむための環境が整った。また、事業を推進していくなかで、地域における「障がい者スポーツの必要性」について、各関係者と共通認識をはかることができ、今後も本事業を継続していくこととなった。

・障がい者のみならず、市内の小学校にもモルックやガイドランナー体験等の出前教室を行い、地域の子供たちにも共生社会に向けたインクルーシブ教育を行うことができた。

障がい者福祉施設を対象に軽スポーツやパラスポーツなどを実施



特別支援学校にも出前教室を実施

宇城市内の公立小学校２校にも出前教室を行った

（２）「地域運営委員会」の開催

【まとめ】

障がい者支援に関係する団体や人物など、本プロジェクトに関わる地域のステークホルダーと教室内容やインクルーシブフェスについての協議や情報共有を行ったほか、地域における障がい者スポーツの推進に向けて考える契機となった。

■実績：各地域において合計 12 回開催

①各実行団体における活動内容

【岩手県奥州市】

ア．開催回数：6 回

イ．検討事項等

スポ・レク倶楽部の活動内容、インクルーシブフェスボッチャ体験・交流会についての意見交換　等

ウ．主な参加者

岩手県障がい者スポーツ協会・奥州市協働町づくり部生涯学習スポーツ課・前沢明峰支援学校・身体障がい者福祉会・ひまわり園・奥州市スポーツ推進委員　等

エ．開催実績

	日程	出席者	検討事項等
1	5 月 2 日	スペシャルオリンピック県南ブロック事務局長（ひまわり会）	スペシャルオリンピックの運営について
2	6 月 6 日	知的障がい者通所授産施設　ひまわり園	通所者のスポーツ体験について
3	6 月 14 日 7 月 5 日	岩手県障がい者スポーツ協会 事務局長　三浦　卓郎	指導者研修会開催に向けた意見交換・相談等
4	5 月 10 日 10 月 25 日	奥州市生涯学習スポーツ課	・スポ・レク倶楽部の説明と進捗報告 ・地域運営委員会の組織役割について
5	5 月 2 日 10 月 25 日	奥州市身体障がい者福祉会 事務局　岩渕　幸徳	・インクルーシブスポーツ体験会について
6	12 月 7 日	奥州市、奥州市スポーツ推進委員、奥州市身体障がい者福祉会、岩手県障がい者スポーツ協会、前沢明峰支援校、社会福祉法人ひまわり会　ほか	・インクルーシブフェスについての協議、意見交換　等

オ．成果等

・地域運営委員会を機に、行政ほか地域の障がい者団体、関係者等が一堂に会し、事業の検討を行ったことで、今後の活動継続に向けて共通認識を図ることができた。

【静岡県御前崎市】

ア．開催回数：2 回

イ．検討事項等：スポ・レク倶楽部の取り組み紹介
支援現場が求めていることなど、意見交換

ウ．主な参加者：放課後等デイサービス職員　等

エ．開催実績

	日程	出席者	検討事項等
1	9 月 10 日	放課後等デイサービス（リカバリー佐倉・リカバリー池新田）	・スポ・レク倶楽部の取り組み紹介 ・支援現場からの要望について意見交換（どのような運動を必要としているのか　など）
2	10 月 17 日	放課後等デイサービス（リカバリー佐倉・リカバリー池新田・リカバリー菊川・ひまわり池新田）	・スポ・レク倶楽部の活動紹介 ・安全対策について（運動施設の導線確認など）

オ．成果等

・支援現場（放課後等デイサービス）からの要望や意見をプログラムに導入するなど、現場が求めていることをスポ・レク倶楽部の活動に反映させることができ、倶楽部活動の充実化につながった。

・地域運営委員会を機に、障がい者福祉施設間の横のネットワークから、市外の放課後等デイサービスも新たに参加することとなり、スポ・レク倶楽部の拡大にも繋がった。

【熊本県宇城市】

ア．開催回数：4 回

イ．検討事項等：スポ・レク倶楽部についての要望等、意見交換
インクルーシブフェスタの開催に向けた協議と振り返り
今後の宇城市の障がい者スポーツ普及について　など

ウ．主な参加者
宇城市体育協会三角支部・宇城市スポーツ推進委員、宇城市教育委員、地元施設代表・校区体育会会長　等

エ．開催実績

	日程	出席者	検討事項等
1	10 月 20 日	NPO 法人あいランド	・スポ・レク倶楽部意見交換 ・インクルーシブフェスについて
2	10 月 21 日	NPO 法人ひとづくり JAPAN ネットワーク	・インクルーシブフェスについて
3	11 月 8 日	宇城市体育協会･スポーツ推進委員、宇城市教育委員、地元施設代表・校区の体育会会長	・インクルーシブフェス開催に向けた意見交換
4	1 月 5 日	宇城市体育協会･スポーツ推進委員、宇城市教育委員、地元施設代表・校区の体育会会長	・インクルーシブフェス振り返り ・今後の障がい者スポーツの普及について

オ．成果等

・インクルーシブフェスについて、地域の各関係団体へ協力依頼や内容検討等を行ったことで、各団体協力のもと、広く地域住民へ事業周知を図ることができ、多世代の参加に結び付けることができた。
・今後の宇城市での障がい者スポーツの普及について、共通認識を図ることができ、新たな活動の幅を広げることができた。

（３）指導者研修会とボランティアの育成

【まとめ】
　各地域で「スポ・レク倶楽部」の運営協力者を育成するため、障がい者スポーツ等についての知識と技術を学ぶ研修会を開催した。
■実績：各地域において合計 5 回開催し、72 人が参加

①各実行団体における活動内容

【岩手県奥州市】

ア．日時：2022 年 7 月 20 日
イ．場所：奥州市前沢Ｂ＆Ｇ海洋センター
ウ．主な内容：フライングディスク講習会
（道具の扱い方や投球方法、ゲームの進め方、指導方法　等）

エ．講師：社会福祉法人手をつなぐ　あすなろ園長　井上　君之 氏

オ．受講者：10 名（奥州市Ｂ＆Ｇ海洋センター職員・奥州白山地区センター長および活動員、ひまわり園職員　等）

【静岡県御前崎市】

ア．日時：2022 年 10 月 17 日

イ．場所：御前崎市市民プール「ぷるる」

ウ．主な内容：障がい者スポーツ指導について（講義・実技・ワークタイム）

・講　義：「障がい者の運動指導で大切なことについて」

・実　技：ボッチャ、フライングディスク

・ワークタイム：みんなで考えよう「障がいに応じたスポーツの工夫」

エ．講師：静岡県障がい者スポーツ協議会　波多野　俊哉 氏

オ．受講者：16 名（Ｂ＆Ｇ海洋センター職員、御前崎振興公社職員、放課後等デイサービス職員、市民ボランティア）

カ．参加者感想等

普段は障がい者と関わりを持たない職員と普段から障がい者と関わりを多く持つ地域の放課後等デイサービス職員の初顔合わせを兼ねた研修会となった。初めて「ボッチャ」を体験し、対象者や場所を選ばず、みんなが一緒に楽しめるスポーツであるということが分かった。また、指導方法や対象者が楽しむためのプログラムを考えるワークタイムでは、様々な意見が出て、大変有意義な研修会となった。

【熊本県宇城市】

１）研修会①

ア．日時： 2022 年 7 月 17 日

イ．場所：宇城市小川町屋内グラウンド

ウ．主な内容：パラスポーツ講習会①（モルック体験）

エ．講師：菊地市スポーツ推進委員　会長　小林　親孝夫 氏

オ．参加者：31 名（宇城市スポーツ推進委員）

２）研修会②

ア．日時： 2022 年 10 月 26 日

イ．場所：宇城市三角Ｂ＆Ｇ海洋センター

ウ．主な内容：パラスポーツ講習会②（モルック・ボッチャ）

エ．講師：宇城市教育委員会　松下　和史 氏

オ．参加者：8 名（宇城市スポーツ推進委員三角支部・宇城市体育協会三角支部）

３）研修会③（実践研修として三角小学校児童への体験会指導を含む）

ア．日時：2022 年 11 月 13 日

イ．場所：宇城市立三角小学校

ウ．主な内容：ガイドランナーについて、モルック体験

・柴尾氏講演「パラ陸上について」

・ブラインドウォーク

・モルック　等

エ．講師：熊本県障がい者スポーツ指導者協議会

（NPO 法人ひとづくり JAPAN ネットワーク）　柴尾　源太 氏

オ．参加者：7 名（宇城市スポーツ推進委員）

※上記研修会①②を受講した指導者が、実践研修として 11 月 13 日に宇城市立三角小学校で児童にモルック等をレクチャーした。また、11 月 19 日にも宇城市立不知火小学校へ出前教室を実施した。

（4）「インクルーシブフェス」の開催

【まとめ】
障がい者を含む地域住民を対象としたパラスポーツなどの一日体験会。障がい者と地域住民がスポーツを通じて交流することで、障がいについて考え、理解を深める機会とすることを目的に実施した。パラアスリートを招き、そのテクニックを披露することにより、パラアスリートのすごさについても体感できる内容とした。各実行団体とも初めての試みであり、各地域における共生社会に向けた具現化事例となった
■実績：各実行団体（3ヵ所）で開催し、障がい者71名を含む地域住民等331名が参加。

①各実行団体における活動内容

【岩手県奥州市】

ア．概要：障がいの有無、世代に関係なく誰でも楽しめるボッチャを通じた交流会を実施。ボッチャ日本代表監督の村上氏とボッチャ日本代表の廣瀬選手との競技を通じた交流から、障がい者への理解を深めるとともに、“大切なのは障がいの有無ではなく、コミュニケーションである”ことを実感したイベントとなった。

イ．名称：インクルーシブフェス～ボッチャ体験交流会　in 奥州

ウ．日時：2023年2月19日（日）

エ．場所：奥州市前沢Ｂ＆Ｇ海洋センター

オ．参加者：119名（障がい者18名含む）親子、地域住民、福祉施設関係者　等

カ．内容：・村上監督、廣瀬選手によるボッチャデモンストレーション
・村上監督によるパラリンピックや障がい者についてなどの説明
・ボッチャ体験交流会、

キ．パラ講師：ボッチャ日本代表監督　村上　光輝 氏
ボッチャ日本代表　　廣瀬　貴喜 氏

ク．参加者感想等
参加者アンケートによると「年齢・性別・障害の有無、何も関係なく交流できたことが素晴らしい」との感想を多くもらった。また、子供を対象としたアンケートでは、車いすユーザーについて 33%の子供が「今回初めて知った」と回答しており、子供たちにとっても貴重な機会となった。

開会式。奥州市小野寺副市長挨拶

村上監督・廣瀬選手によるデモンストレーションと監督によるパラリンピックや障がいについての説明

パラリンピック、世界選手権のメダルを見せてもらう

ボッチャ交流会

■報道等

ボッチャの魅力発信

前沢・廣瀬選手（リオパラ）投球披露

奥州

奥州市の前八幡小で、障がい者スポーツ体験・交流会が開かれ、前沢出身で東京パラリンピックの金メダリストの廣瀬隆喜選手（32）が、ボッチャの魅力を伝えた。

ボッチャは、脳性まひなどの重度障がい者が参加するパラリンピックの競技。廣瀬選手は、2016年のリオデジャネイロ大会の個人戦で金メダルを獲得した。

廣瀬選手は、ボッチャ選手の村上監督とともに、ボッチャ体験・交流会で参加者に代わって投球する廣瀬選手（左）

2023年2月20日岩手日日新聞

ボッチャ狙い定め白熱

パラ五輪メダリストと体験

奥州

奥州市の前八幡小で、障がい者スポーツクラブ（及川浩理事長）は19日、同市の前沢B&G海洋センターでボッチャ体験会を開催、メダリストから指導を受けた参加者が競技の魅力に触れた。

約90人が参加。東京パラ五輪男子個人戦メダリストの広瀬隆喜さんと同代表選手の村上光輝さんがボッチャのルールなどを説明し、広瀬選手の実演には会場から感嘆の声と拍手が湧き起こった。

鈴木浩輝君（前沢小5年）、詩織さん（同3年）きょうだいは「ボールが重くて難しいけれど、楽しい」と気分を広げた。

スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」の一環で開催。同クラブは数年前から奥州市内でボッチャに熱心に取り組んでいる。

体験会では自慰した試合を繰り広げた。

ボッチャを体験する児童ら

2023年2月21日岩手日報

【静岡県御前崎市】

ア．概要

障がい児と健常児が混合チームを組みブラインドサッカーを体験。視覚を遮断した体験は、視覚障がい者への理解につながったほか、ブラインドサッカーでは、相手を思いやる想像力やコミュニケーションの大切さを体験から学んだ。また、参加者にとって身近なサッカーを題材にしたことにより、辻選手が訴えていた「障がいも個性の一つ」として多様性について考える機会となった。

イ．名称：インクルーシブフェス ～ブラインドサッカー®体験会～

ウ．日時：2023 年 1 月 28 日（土）

エ．場所：御前崎市Ｂ＆Ｇ海洋センター

オ．参加者：101 名（障がい児 27 名、地域の幼・小・中学生 31 名含む）地域住民、福祉施設職員、保護者　等

カ．内容：・講師によるブラインドサッカーデモンストレーション
・アイマスクを着用した歩行体験
・ブラインドサッカー交流会、ゲーム　等

キ．パラ講師：ブラインドサッカー選手：辻 一幸 氏（ソイエ葛飾）
コーディネーター：上谷　誠大 氏（日本ブラインドサッカー協会）

ク．参加者感想等

サッカー少年団に所属している子供からは、「目が見えない状態でのサッカーは難しかったけれども、目が見えなくても自分たちと同じようにサッカーが出来ることがわかった。自分たちと同じなんだ」との感想が聞かれた。また、成人参加者へのアンケートでは、「またこのような障害者理解やインクルーシブを目的としたイベントがあったら参加したいか」の問いに 100％の方が「はい」と答えており、住民の関心の高さが伺われた。

開会式　御前崎市 鴨川副市長挨拶

辻選手によるデモンストレーション

一人がアイマスクを着用し視覚が遮られた状態で、相棒のガイド役の手を叩く「音」と「声」を頼りに歩く。二人のコミュニケーションが大切

■報道等

ＮＨＫでも放映（2023 年 1 月 28 日）

【熊本県宇城市】

ア．概要：

視聴覚障がいの疑似体験やサイレント伝言ゲームを通じ、相手に伝えることの難しさや、信頼関係を築く大切さなどについて学ぶ。モルック交流会では障がい者チームと健常者チームが対戦。白熱したゲームにお互いの交流を図る機会となった。

イ．名称：インクルーシブフェスタ～in 宇城市

ウ．日時：2022 年 12 月 3 日（日）

エ．場所：宇城市三角Ｂ＆Ｇ海洋センター

オ．参加者：111 名（障がい者 26 名含む）親子、地域住民、福祉施設職員　等

カ．内容：第１部　講演「障がい者もスポーツがしたい～スポーツができる環境を～」
ガイドランナー体験（アイマスク着用によるブラインドウォーク）
サイレント伝言ゲーム
第２部　モルック交流会

キ．講師：柴尾　源太 氏（NPO 法人ひとづくり JAPAN ネットワーク）
・世界ジュニアパラ選手権日本代表ガイドランナー
・J-STAR プロジェクト パラ陸上トレーニング指導コーチ
・熊本県障がい者スポーツ指導者協議会

ク．成果等：
・宇城市で初めてとなる障がい者と健常者がともにスポーツを通じて交流を図るイベントを開催することができた。
・熊本県内のＢ＆Ｇ所在自治体からもスポーツ指導者を派遣でき、県内に事例を提示することができた

ケ．参加者感想等：
「みんながとても楽しんだ。どうしても障がい者は、身体を動かす機会が少ないのでこのような機会があるのは大変ありがたい」（参加した福祉施設の職員）

柴尾氏による講演

ブラインドウォーク。親子で体験

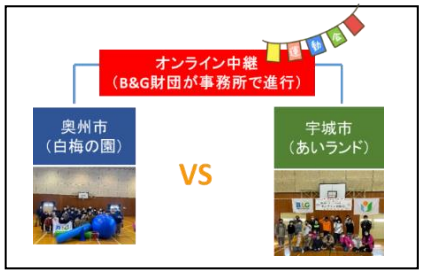
声を出さないサイレント伝言ゲーム

モルックによる交流会。障がい者チームと健常者チーム（親子やスポーツチームなど）を対戦相手とし一緒のコートでプレーした

熊本県内の他市町村（湯前町・南阿蘇村・菊池市・玉名市）職員も審判員として協力

（５）スポ・レク倶楽部「施設対抗オンライン運動会」の開催

コロナにより活動が制限される中、「スポ・レク倶楽部」の活動の一環として、オンラインを活用した施設対抗型の運動会を開催。奥州市と宇城市のＢ＆Ｇ海洋センター体育館をオンライン中継で結びながら実施し、両市の就労継続支援Ｂ型事業所に通う障がい者など 82 名が参加した。



①ねらい：普段の活動とは異なるスポーツ種目や環境、スポーツを通じた交流機会を提供することで、障がい者に新たな刺激や勝敗によるスポーツ本来の楽しみ方を体験してもらうとともに、施設ごとの連帯感も味わうなど、スポーツライフの向上を目指す。

②日時：2023 年 1 月 30 日（月）

③場所：奥州市前沢Ｂ＆Ｇ海洋センター体育館、宇城市三角Ｂ＆Ｇ海洋センター体育館、Ｂ＆Ｇ財団事務所

④参加者：スポ・レク倶楽部参加者（就労継続支援Ｂ型事業所）

白梅の園（奥州市）　障がい者 36 名、施設職員等　18 名

あいランド（宇城市）　障がい者 22 名、施設職員等　6 名

※御前崎市は、主に子供が対象であること、今回は平日に実施したことにより、担当者のみがオンラインで参加した。

⑤内容：開会式、レク体操（準備運動）、低床型玉入れ、ジャンボバトンリレー、大玉転がし、閉会式（結果発表）

⑥成果等：

コロナ禍で障がい者の活動が制限されるなか、コロナにより普及したＩＣＴ環境とＢ＆Ｇネットワークを活用し、新しいスタイルでのスポーツ活動を提供することができた。

ジャンボバトンリレー。Ｂ＆Ｇ財団のスタート合図で、各施設２チーム、合計４チームが速さを競った。

大玉転がし

低床型玉入れ。Ｂ＆Ｇ財団のスタート合図で同時に玉入れを行う

最後は、モニターに向かいお互いに“さようなら”の挨拶

６．事業成果について

本年度より事業をスタートさせ、試行錯誤しながら事業を推進し、各地域において以下の成果が得られるとともに、課題等も明らかとなった。

【岩手県奥州市】

【成果や今後の展開】

- ●スポーツ機会が乏しかった地域の障がい者に、スポーツする機会を提供できたとともに、身近にある地域の公共施設（海洋センター）で、スポーツを楽しめる土台を作ることができた。今後は、障がい者団体と連携しながら事業を推進していくことで、定期的に障がい者が海洋センターでスポーツを楽しむ機会を増やしていく。
- ●地域における障がい者スポーツの振興を図るため、数年前から福祉団体等との連携を図ってきた。今回を機に新たな関係者との繋がりも生まれるなど、ネットワークの構築・拡大ができた。
- ●「地域運営委員会」で、行政をはじめ地域の障がい者団体や関係者等が一堂に会し、事業の検討が行えたことから、今後の活動継続に向けた共通認識を図ることができた。

【課題】

●コロナの全国的な感染拡大により、当初スケジュール通りに実施できないことが多かった。

●障がい者団体等の情報収集や連絡手段を広げていくことが予定どおりに進まなく、障がい者スポーツを推進していく体制がまだまだ十分とはいえない。

【静岡県御前崎市】

【成果や今後の展開】

●地域の障がい児に定期的な運動習慣を提供することができた。事業回数を重ねるごとに参加者数が増加。保護者からは「運動により、子どもの寝つきが良くなった」「着替えなど進んで行えるようになった」「家にこもりきりの休日に、外出する用事ができ、生活にメリハリができた」「運動不足の解消に繋がっている」などの感想をもらったことから、生活面においても子供たちに好影響が生まれたことがわかる。これらのことから、次年度についても今年度の課題等を改善しながら、スポ・レク倶楽部を継続実施していくことが決定した。

●子供たちがスポーツの楽しさを知ったとともに、心の成長にもつながった
スポーツを通して、参加者に目標（泳法習得）ができた。その目標を達成できたことを親子で喜び合う姿が見受けられた。レースでは、「負けて悔しい、次は一番になりたい」などの声があり、子供たちの心の成長にもつながった。

●子供たちへのアンケートによると「プールの日が嬉しい！」「プールが楽しい！」「プールが大好き！」の回答が 100%

【課題】

●一度参加するとリピート率は高いものの、新規参加者の獲得が思うようにできなかった。そのため、今後は、直接対象者（障がい児）へアピールできるよう、広報活動を見直していく。特に特別支援学校は、県の管轄となるため、そのアプローチ方法を開拓する必要がある。

●新たな事業協力者の発掘と指導者のスキルアップ
障がい児（幼児～小学生）のプール教室は、大変人気があるため、定員を増やして対応しているものの、指導者が不足している。その対応として、地域の潜在的な協力者を掘り起こしていく必要がある。

【熊本県宇城市】

【成果や今後の展開】

●「宇城市スポーツ振興計画」にある「障がい者のスポーツ活動の推進」を具現化することができた

●地域の障がい者福祉団体と新たなネットワークが構築され、スポーツ機会が少なかった地域の障がい者がスポーツを楽しむための環境を整えることができた。今後も引き続き、定期的に海洋センターでスポーツやレクリエーションを楽しむ機会を提供していく。

●事業を推進していくなかで、「障がい者スポーツの必要性」について、各関係者と共通認識をはかることができた。

●障がい者のみならず、地域の小学校にもモルックやガイドランナー体験等の出前教室を通じ、児童期から障がい者理解に向けたインクルーシブ教育を行うことができた。

【課題】

●教室への安全性を更に高めるため、障がい者への接し方など含め、指導者の更なる指導力向上が必要である。

（2）事業全体をとおしての成果と課題

【成果】

■ **各実施地において、地域の障がい者が継続的にスポーツに取り組める基盤（環境）が整った**

→地域にある障がい者福祉団体と社会体育施設（海洋センター）とで、新たな関係性を確立し、組織化することができた

→地域における障がい者スポーツ団体や人など、障がい者に関わるステークホルダーとネットワークを構築することができた

→障がい者指導に関する新たな人材を育成することができた

■共生社会の実現に向けたスポーツ事業を具現化することができた

岩手県奥州市、静岡県御前崎市、熊本県宇城市の「スポーツ推進計画」や「総合計画」で政策として掲げられている”障がい者を含む地域住民へのスポーツ推進”の事例として具現化することができた。

【課題と解決策】

事業を推進していくなかで以下の課題があがってきたとともに、今後の事業発展に向けて以下の対応を検討していく。

① コロナ感染拡大による影響

事業実施にあたり、障がい者福祉団体が、外部講師の受入れ禁止などの予防対策をとったため、当初計画から変更をせざるを得ない地域もあった。特に夏場の全国的な感染拡大により、全ての実施地において夏場の活動が中止もしくは縮小されることとなり、当財団の特徴でもある「水辺でのアウトドアスポーツ体験」が十分に実施できなかった。

→アウトドアでの自然体験活動は、青少年の育成のみならず障がい者にとっても良い効果があることがわかっている。今後は、自然体験活動のもたらす効果などの周知も図り、屋内での身体活動のみならず、様々なスポーツの可能性を広げ、障がい者にもチャレンジできるアウトドアスポーツの実施にも目を向けていく。

→コロナも 2023 年 5 月からは感染症法上の分類が 5 類に引き下げられるなど、通常の社会活動が戻りつつあるが、今後も障がい者対象の事業やイベントが感染防止のため縮小傾向が続く場合は、引き続き外出機会や身体を動かす機会も減少したままの状況となり、健常者とのスポーツ実施率の差が更に広がることとなる。単に感染を防ぐため事業中止とするのではなく、十分な感染対策をとりながら、柔軟に工夫しながら実施していくことも必要である。

② 自走化と定着化に向けた取組みを強化する必要がある

第１ステージとして、各地域においてスポーツを行う環境が整ったため、第２ステージとして事業の自走化とスポーツ習慣の定着化を図るため、以下の検討を行っていく。

→事業経費について、受益者負担や企業協賛、支援者の獲得などの方策も考える必要がある。

→新たな障がい者支援団体や組織と連携し、参加対象者（障がい者）を広げていく。

→事業協力者を拡大できるよう、地域のステークホルダーだけではなく、障がい者スポーツ団体との関係性を更に高め、タイアップ事業などを企画していく。

→教室運営のサポーターを獲得できるよう、新たな指導者やボランティアを発掘していく。

③全国展開に向けて、モデルケースを増やしていく必要がある

Ｂ＆Ｇ財団は、全国 465 ヵ所のＢ＆Ｇ海洋センターとネットワークを構築し、自治体と協働で各種事業を展開している。本事業は海洋センターにおける、継続的かつ年間を通じた障がい者を対象としたスポーツ教室のモデルとして、異なる 3 ヵ所の地域を選定し実施したが、海洋センターは、海岸部や山間部、温暖・寒冷など様々な環境の違いがある。そのため、障がい者を対象としたスポーツ教室を加速度的に推進していくためには、地域の実情に合わせた形で導入できるよう、更なる事例（パターン）を増やしていく必要がある。

７．今後の展開等について

■全国のＢ＆Ｇ所在自治体と情報共有し、障がい者スポーツ事業の展開を図る

Ｂ＆Ｇ財団は「行政」「教育」「指導者」に関するネットワーク（プラットホーム）を構築しており、様々な事業を全国的に普及させていくスキームを確立している。
その事業展開スキームを使い、今年度の活動事例のみならず、今後もモデル事例を展開し、当財団のネットワーク組織「Ｂ＆Ｇ所在自治体首長会議（行政）、Ｂ＆Ｇ全国教育長会議（教育）、Ｂ＆Ｇ全国指導者会（指導者）」などを活用して、全国のＢ＆Ｇ所在自治体と情報を共有し、障がい者スポーツ事業の更なる普及を図る。

８．参加者アンケートによる考察

スポ・レク倶楽部に参加した障害者および施設職員にアンケートを行った結果、以下の回答であった。（回答者：障害者 253 人、福祉施設スタッフ 16 人）

（１）評価指標と実績（まとめ）

■海洋センターで近隣の障がい者等がスポーツやレクリエーションを実施できる機会の提供

目標）障がい者等の利用者、参加者数　600 人
結果）→　1,689 人（うち、障がい者 780 人）が参加

目標）ボランティア指導者の養成　20 人
結果）　→　72 人を養成

■目標達成を図るための評価指標

【施設スタッフ対象】

目標）教室実施前と終了後のスポーツへの意識変容
（スポーツや健康への関心度の向上）
結果）→　意識変容があった 93%

目標）教室運営者、関係者の高満足度 80%以上
結果）→　満足度 100%

【障害者対象】

目標）教室参加者の満足度 80%以上
結果）→　満足度 100%

目標）教室参加継続率 70%以上
結果）→　継続率 88%

（２）アンケート結果と考察

【施設対象アンケート】

①福祉施設における障がい者スポーツの必要性と実施状況について（回答：成人施設）

Ｑ１.事業者や利用者にとって、障がい者がスポーツやレクリエーションをすることは必要だと思うか。

・必要である　100%

・必要ではない　0%

主な理由：利用者等からもニーズがある。 利用者同士のコミュニケーションを図ることができるため。 健康増進のために必要である 施設内だけではスペース的に難しいため

Ｑ２．事業所の事業やサービスで定期的に運動やレクリエーションの機会を提供しているか。

・している　　41%

・していない　59%

→上記 1、2 の回答結果から、施設担当者として「障がい者がスポーツをすることは必要だ」と考えているが、実際は実施できない現状が見える。コロナにより活動を自粛しているとの回答もあった。

②スポ・レク倶楽部の活動について（回答：成人・子供共通）

Ｑ３．スポ・レク倶楽部に参加して利用者に変化はあったか

・変化があった　　96%

・変化は見られない　　4%

Ｑ４．倶楽部に参加してどのような変化があったか（複数回答）

・表情が明るくなった

・会話（コミュニケーション）が増えた

・身体を動かすことが好きになった

・積極性が見られるようになった

→成人障がい者については、教室に参加する前後で、「参加者の表情が明るくなった」「積極性が見られるようになった」など心の変化が見られるようになった。

→子供の障がい児については、「ボール遊びに興味がなかった子が、興味を持ち、遊んでくれるようになった」「ニコニコしながら走り回ったり新しい一面が見れた」など、日常的に接している施設職員も気づかなかった一面をみることができた

Ｑ５．スポ・レク倶楽部への満足度について（成人・子供共通）

・とても満足している　87％
・まあ満足している　　13％
・普通　　0％
・少し不満である　　0％
・不満である　　0％

→「とても満足している」「まあ満足している」が、100％を占め、本事業が施設担当者にとっても評価されていることがわかる。

【障害者対象アンケート】

①満足度について

Ｑ１．教室は楽しかったか

・楽しかった　100％
・普通　　0％
・つまらない　　0％

②継続性について

Ｑ２．次もスポーツ教室（スポ・レク倶楽部）に参加したいか

・はい　　88％
・どちらでもない　12％
・いいえ　　0％

【福祉施設からの感想（抜粋）】

●障がい者（成人）対象

・（スポ・レク倶楽部について）利用者さんが仲間と楽しく運動することができて、コミュニケーションにもつながるため、今後も続けて欲しい。
・事業所職員も競技内容等の実践の機会があれば良いと思う。利用者をまとめるなど、より多くの後方支援ができるようになると思う。

●障がい児（子供）対象

・体育館では広いスペースを存分に使わせてもらい、体をたくさん動かすことができ、運動支援の幅が広がり助かりました。
・コロナの影響もあり、事業所内だけの活動に留まることが多いため、地域とのつながりが感じられるような活動があれば、子ども達にも良い刺激になると思います。
・支援学校に通う子どもたちは通学で体力を使うという毎日の運動がない施設（放課後等デイサービス）だけでは運動量を補えなく、かといって公園や散歩等の外出も安全面を考えると多くは行えない。そのため安心して参加できる体育館遊びや水泳はこれからも継続して欲しい。

本報告書は、スポーツ庁の受託事業として、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（Ｂ＆Ｇ財団）が実施した令和４年度「障がい者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障がい者スポーツの実施環境の整備事業）の成果をとりまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です